

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の参加状況

第4学年 国語74人 算数74人 理科74人

第5学年 国語75人 算数75人 理科75人

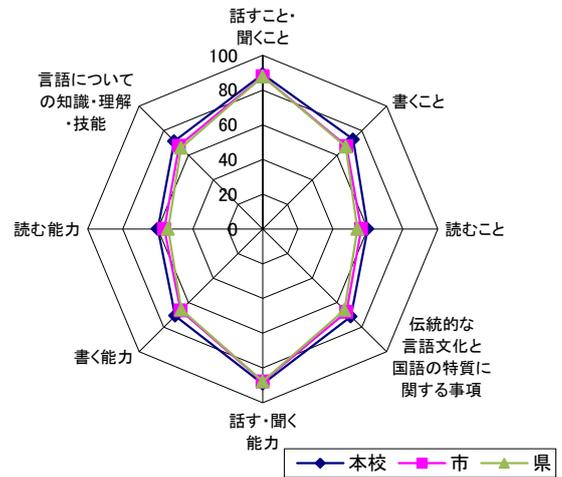
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	89.2	87.9	87.8
	書くこと	73.0	67.6	67.1
	読むこと	60.0	56.3	54.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.2	67.6	66.0
観点	話す・聞く能力	89.2	87.9	87.8
	書く能力	70.7	66.3	65.7
	読む能力	60.0	56.3	54.1
	言語についての知識・理解・技能	71.5	67.7	66.0



★指導の工夫と改善

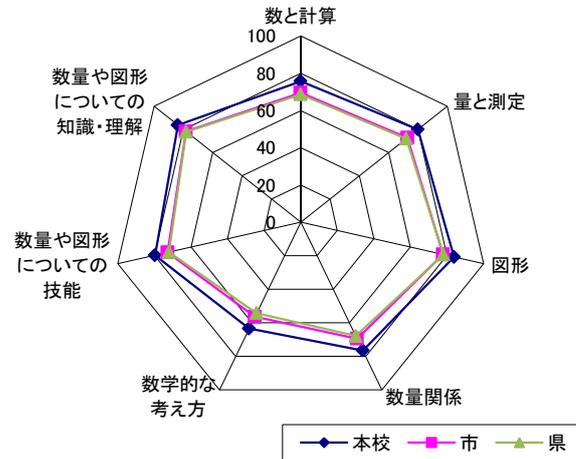
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は、89.2%で、県平均より1.4ポイント、市平均より1.3ポイント高く、ほぼ同じである。 ●話し方の工夫を選択する設問の正答率は県平均よりも4.7ポイント低く、適切な選択肢を選ぶことができていない	・相手を意識した話の仕方や聞き方を日ごろから意識して指導していく。 ・話し方の工夫を示し、朝の学習や帰りの会を使ってスピーチや質問タイムを設定していく。
書くこと	○領域の平均正答率は、70.7%で、県平均より5.0ポイント、市平均より4.4ポイント高く、ほぼ同じである。手紙を敬体で書くことは、89.2%が理解していた。	・手紙を書くときに、読み手に伝えたい事柄を正確に伝えられるように指導していく。 ・他教科でも、大切なことを落とさずに、正確に書く活動を取り入れる。
読むこと	○領域の平均正答率は60.0%で、県平均よりも5.9ポイント、市平均より3.7ポイント高い。場面の様子を叙述をもとにして読む設問は、市、県と共に正答率が低かった。	・物語の登場人物の会話文や行動描写から、気持ちを想像して読み取る指導をしていく。 ・朝の読書の時間や家読で、数多くの本を読む機会を意図的に増やしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○事項の平均正答率は71.2%で、県平均よりも5.2ポイント、市平均より3.6ポイント高い。漢字の読み書きの正答率は、ほとんど市、県平均をかなり上回るが、2学年の配当漢字の「遠足」の書き取りが低かった。	・既習漢字は生活の中で使用できるよう、日記指導などで、日ごろから指導していく。ドリルなどを使っての家庭学習や小テストなどで、定着を図っていく。

宇都宮市立御幸小学校第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.8	69.6	68.7
	量と測定	80.0	72.8	72.0
	図形	83.8	77.8	78.0
	数量関係	76.5	69.4	67.8
観点	数学的な考え方	63.4	56.3	54.2
	数量や図形についての技能	79.7	72.7	72.0
	数量や図形についての知識・理解	83.8	78.2	78.1



★指導の工夫と改善

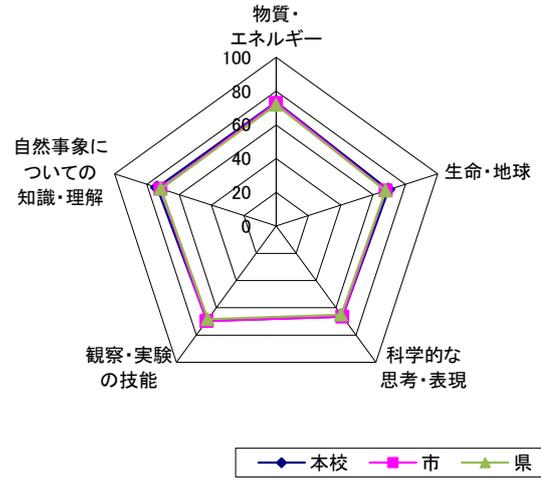
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域の平均正答率は75.8%で、県平均よりも7.1ポイント、市平均より3.2ポイント高い。 ●数直線上に示された分数の表し方、()を用いた乗法の式の意味の2問については、県、市と共に正答率が低かった。	・計算問題は、すべて正答率が高かったので、引き続きドリルなどで習熟させる。()を用いた式の意味を理解できるよう、繰り返し学習することで定着を図る。
量と測定	○領域の平均正答率は80.0%で、県平均よりも8.0ポイント、市平均より7.2ポイント高い。 ●時刻と時間の問題では、県、市と共に正答率が低かった。	・生活の中で、時刻や時間を意識させ、時間の感覚を養うよう指導する。 ・長さや重さについても、他教科で実際に計測する体験を増やし、見当をもって問題に取り組めるようにする。
図形	○領域の平均正答率は83.8%で、県平均よりも5.8ポイント、市平均より6.0ポイント高い。正三角形の作図では、正答率81.1%で市平均より6.3ポイント高い。	・直径や半径の関係、作図等もよくできているので、引き続き復習させ定着を図る。 ・既習した図形だけでなく、いろいろな図形に興味を持ち、進んで作図できるような活動を取り入れる。
数量関係	○領域の平均正答率は76.5%で、県平均よりも8.5ポイント、市平均より7.1ポイント高い。□を使った式では、県の平均を10.3ポイント上回るが正答率が45.9%と低かった。	・□を使った文章問題を繰り返し学習することで、問題の意味を理解できるよう指導する。 ・他教科でも、棒グラフを使った学習を取り入れ、正しく作図したり、説明できたりするよう指導する。

宇都宮市立御幸小学校第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	73.5	73.1	71.8
	生命・地球	69.5	67.9	67.8
観点	科学的な思考・表現	66.4	66.5	65.0
	観察・実験の技能	69.4	69.7	68.4
	自然事象についての知識・理解	73.7	71.6	71.4



★指導の工夫と改善

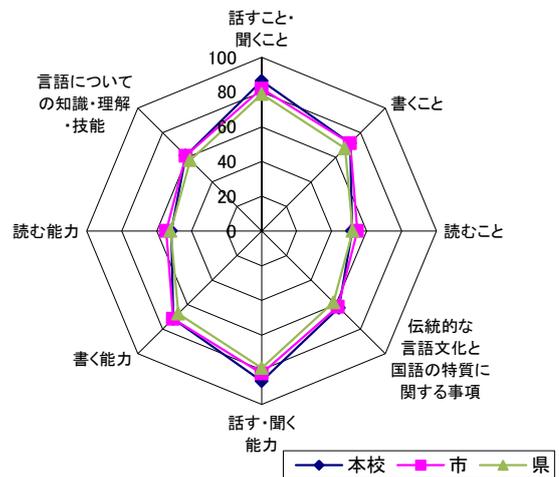
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○領域の平均正答率は73.5%で、県平均よりも1.7ポイント、市平均より0.4ポイント高く、ほぼ同じである。</p> <p>●豆電球の点灯の有無から回路を考える問題では、市の平均を14.2ポイント下回った。</p> <p>●10円玉(銅)の性質を利用して仲間わけできる問題では、県の平均19.1%、市の平均21.2%本校の平均16.9%と低かった。</p>	<p>・電気の通り道や磁石の性質を理解しているが、その理由を正確に説明できるよう、多様な問題に取り組み、定着を図る。</p> <p>・ものと重さ、風やゴムの働き、光の性質については、よく理解できているが、生活の中で体験できる活動を取り入れていく。</p>
生命・地球	<p>○領域の平均正答率は69.5%で、県平均よりも1.5ポイント、市平均より1.6ポイント高く、ほぼ同じである。</p> <p>●方位磁針を正しく使うことができる設問では、県平均よりも6.1ポイント低い。</p>	<p>・太陽と地面の様子は、よく理解できているが、昆虫と植物に関する問題に誤答が多いので、身の回りの動植物を観察する活動を多く取り入れ、知識の定着を図るようにする。</p> <p>・他教科でも、方位磁針を使う活動を取り入れ、正しく使えるように指導する。</p>

宇都宮市立御幸小学校第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	86.5	82.0	78.9
	書くこと	71.6	71.5	67.4
	読むこと	51.7	54.6	52.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.6	61.7	58.1
観点	話す・聞く能力	86.5	82.0	78.9
	書く能力	71.6	71.5	67.4
	読む能力	51.7	54.6	52.1
	言語についての知識・理解・技能	61.4	61.3	57.7



★指導の工夫と改善

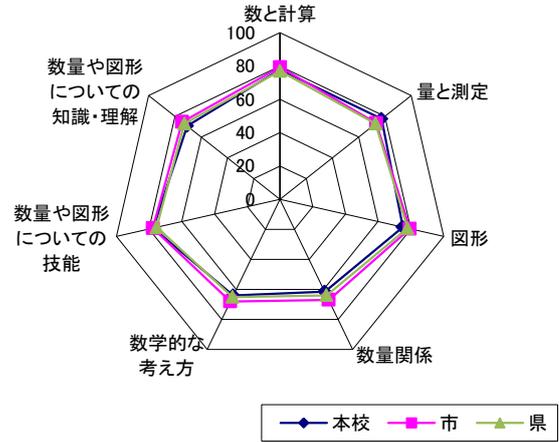
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は86.5%で、県平均より7.6ポイント、市平均より4.5ポイント高い。 特に、話し合いにおける司会者の工夫を選択する設問の正答率は71.6パーセントで市平均より9.3ポイント高い。話し合いの内容の聞き取りに一定の成果が見られる。	・基本的な学習訓練の指導を繰り返す。また、意図が正確に伝わるような話し方の指導を行うとともに、聞き手はしっかりとメモが取れるよう指導していく。そして、グループ学習やペア学習を積極的に取り入れ、話し合いをする機会を多く設けるようにする。
書くこと	○領域の平均正答率は71.6%で、県平均より4.2ポイント高く、市平均とほぼ同じである。 特に自分の意見を明確に書くことの正答率は89.2パーセントで県平均より6.1ポイント高く、自分の意見を支える理由を適切な表現を用いて書くことについても県平均より7.3ポイント高い。意見に明確な理由をつけて書くことに成果が見られる。 ●2段落構成で文章を書くことについて市平均、県平均よりやや低く、段落構成の理解に課題が見られる。	・各学習において、自分の意見を書く機会を多く設けていく。また、作文のきまりの習得を徹底し、原稿用紙を使って、段落を意識させ正しく書けるように指導していく。
読むこと	●領域の平均正答率は51.7%で、県平均より0.4ポイント、市平均より2.9ポイント低い。 特に段落相互の関係について適切なものを選択する設問の正答率は24.3%で県平均より10.5ポイント低い。説明的な文章における内容の把握と構成の理解に課題が見られる。	・説明的な文章の学習において、文章の話題、理由や根拠となる内容、構成の仕方や叙述などに注意させながら、文章の要旨や段落相互の関係を捉えるよう指導していく。また、文章を比較して読んだり、自分の考えをまとめたりする活動や、自他の思考を交流する言語活動を取り入れ、理解を深める指導をしていく。 ・朝の読書の時間や家読を推奨し、読書への興味・関心を高め、文章理解に役立てていくようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○事項の平均正答率は62.6%で、県平均より4.5ポイント、市平均より0.9ポイント高い。 特に、前学年(第4学年)の配当漢字を読む3問全体の平均正答率は81.5%で、県平均より7.5ポイント高い。漢字の知識の定着に一定の成果が見られる。 ●漢字を書く3問では、市、県平均を上回るが、前学年(第4学年)の配当漢字の正答率が低い。漢字を正しく書くことに課題が見られる。	・漢字の学習では、新出漢字の構成や筆順、意味や由来、音と訓の読み方を漢字辞典で調べさせるとともに、数多くの熟語について使用例を提示しながら重点的にしどろしていく。また、文や文章を書く際には、漢字の送り仮名に注意しながら、既習漢字を適切に意識して使うよう指導する。さらに、家庭学習や小テストなどを取り入れながら定着を図っていく。

宇都宮市立御幸小学校第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.8	79.3	77.1
	量と測定	77.4	73.4	72.9
	図形	75.0	79.4	78.0
	数量関係	61.6	67.0	64.0
観点	数学的な考え方	64.1	68.2	65.1
	数量や図形についての技能	77.6	77.7	75.4
	数量や図形についての知識・理解	70.8	74.5	72.8



★指導の工夫と改善

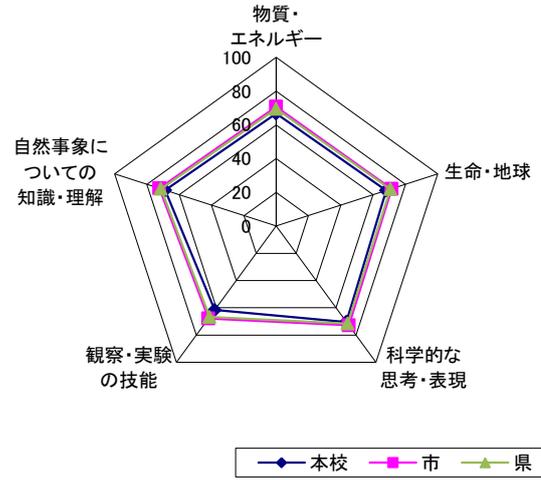
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域の平均正答率は77.8%で、県平均より0.7ポイント高く、市平均より1.5ポイント低い。 特に分数の理解や小数の筆算では市、県平均より高く、計算の定着に一定の成果が見られる。 ●わり算の商に空位ありの計算では、市平均より12.7ポイント低く、千の位までの概数の表し方の理解についても、市平均より11.7ポイント低い。	・この領域を指導するにあたっては、3、4年生の学習が基礎となるため、朝のぐんぐんタイムを活用して分数や小数の四則の計算について復習を行い、繰り返して学習することで定着を図る。
量と測定	○領域の平均正答率は77.4%で、県平均より4.5ポイント高く、市平均より4ポイント高い。 特に長方形の面積を求める設問の正答率は91.9%で、市平均、県平均より1ポイント高い。面積の公式の理解に成果が見られる。一方、1㎡は何cm ² であるかを答える設問の正答率は58.1%で市、県平均より約20ポイント近く高いが基礎・基本の設問中で最も低い。面積の単位換算に課題が見られる。	・面積の単位の関係については、単位面積の1辺の長さを単位換算することと関連づけた指導をしていく。また、単位換算について、理由を言葉や式で説明する活動を取り入れて児童なりに表現させることや正方形を敷き詰める活動によって実感をもたせるようにしていく。
図形	●領域の平均正答率は75.0%で、県平均より3.0ポイント低く、市平均より4.4ポイント低い。 特に、長方形の辺どうしの垂直な関係の理解では、66.2%で市、県平均より約12ポイント低い。図形の辺どうしの関係の理解に課題が見られる。 ○示された2つの辺を基にしてひし形の作図をする設問の正答率は67.6%で市平均より4.7ポイント高い。作図の技能習得に一定の成果が見られる。	・図形の基本である垂直や平行について具体物を使って理解させるようにし、身の回りの関係でも垂直や平行を意識させるようにしたり、その言葉を使って説明をさせたりするように指導していくようにする。
数量関係	●領域の平均正答率は61.6%で、県平均より2.4ポイント低く、市平均より5.4ポイント低い。 特に、分配法則の理解については28.4%で県平均より11.4ポイント低く、市平均より16.4ポイント低い。計算のきまりの理解に課題が見られる。また、棒グラフと折れ線グラフについて、変わり方の違いから2つのグラフが同じ資料についてのものではないと説明する設問の正答率は23.0%で、全設問中最も低く、13.5%と最も高い。グラフを読み取り説明することに課題が見られる。	・計算のきまりについては、きまりを使うことによってより簡単に計算ができるよさに気付かせるようにし、繰り返し練習することで定着を図る。また、資料の読みの説明については、複数の資料についてのグラフを比べて共通点や違いを見いだし、自分なりに説明する算数的活動を取り入れる。

宇都宮市立〇〇〇小学校第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.8	70.8	69.5
	生命・地球	68.1	71.5	70.8
観点	科学的な思考・表現	70.4	72.8	71.7
	観察・実験の技能	61.6	67.8	66.8
	自然事象についての知識・理解	68.7	72.3	71.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>●領域の平均正答率は66.8%で県平均より2.7ポイント低く、市平均より4ポイント低い。 特に、閉じこめられた空気を圧すときの、体積や押し返す力の理解、水が氷になると体積が増えること、水は沸騰すると、水蒸気という気体の水になることの理解が県平均より5ポイント以上低い。物質・エネルギー領域全般の知識・理解の定着に課題が見られる。 ○アルコールランプの安全な使い方の設問では、県平均より4.3ポイント高い。アルコールランプの安全な使い方の技能に一定の成果が見られる。</p>	<p>・この領域を指導するに当たっては、数値で表すことができないものがあるので、目で見た事象をを理科的に捉え直して正しく理解できる指導が必要になる。そのため、実験→言葉での説明→実験→ノートにまとめるなどのように、繰り返して確認できる場を設定して指導する。</p>
生命・地球	<p>●領域の平均正答率は68.1%で県平均より2.7ポイント低く、市平均より3.4ポイント低い。 特に、人の背中がまるく曲げられる理由の説明や気温を正しく測る、方位磁針を使って月の方角を調べる設問において、県平均より5ポイント以上低い。思考・判断・表現や技能面での定着に課題が見られる。 ○月の一日の動きを選ぶ設問では、90.5%と正答率が高く、県平均より9.2ポイント高い。月の1日のうちでも東から西へ動くことこの理解は定着していると見られる。</p>	<p>・この領域を指導するに当たっては、実験などの実際の活動を重視するだけでなく、デジタル教科書やインターネットなど映像資料を活用して、具体的なイメージが持てるようにし、知識の定着を図るようにする。</p>

宇都宮市立御幸小学校第4・5学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

第4学年

学校や家での学習について

●家で、学校の宿題はよくやられているが、復習や宿題以外の学習については、県や市の平均よりも10ポイント低くなっている。家庭学習の仕方を指導し、家庭にも協力を依頼し改善を図っていく。

○本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ているについては、県や市の平均を10ポイント上回っているが、辞書を使って調べているは10ポイント低くなっている。

●授業に進んで取り組んでいるや授業の目標が示されているでは、県や市の平均よりも5ポイント低くなっている。児童が進んで取り組めるよう、さらに教師が授業の工夫をすることも必要である。

生活について

●携帯やスマートフォンのフィルタリングについては、県や市の平均よりも10ポイント低くなっている。フィルタリングの必要性について保護者に情報提供していくことが必要である。

○普段の生活を楽しいと思っている児童が多く、安定した生活がおくれている。

第5学年

学校や家での学習について

●家で授業の予習・復習をしている、家で学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしているなどの質問に対して、県、市平均より5ポイント以上低くなっている。家庭学習の習慣化が図れるよう、家庭学習の仕方を具体的に示して指導するとともに、学年便りや懇談会等で家庭にも協力を依頼し、自分の計画で進んで学習に取り組めるように改善を図っていく。

○学校の授業についての回答では、グループの話し合いに自分から進んで参加している、授業を集中して受けているなどで県平均より5ポイント以上高い。児童が意欲的に学習に取り組んでいることが伺える。しかし、難しい問題に出会うとやる気がでるかとの問いに対しては、半分以上の児童が出ないと回答している。教師が本時のねらいを明確にし、分かりやすい授業作りに努めることも必要であると思われる。

生活について

○毎朝自分で起きているについての回答は県の平均より10ポイント近く高い。早寝・早起きの習慣がついていると思われる。

●食事の時好き嫌いをしないで食べているについては、県平均より10ポイント近く低い。保健学習において栄養についての指導の充実を図り、日々の給食指導の中でも、偏りなく食べることの大切さを指導していくようにする。

●携帯電話・スマートフォンを所持する割合が県平均より12ポイント高い。携帯電話の必要性や使用方法につて授業や懇談会などで話題にしていく。フィルタリングについても保護者に対してその必要性やかけ方について情報提供していき、携帯電話などの危険性について周知していく必要がある。